

■招詞 テサロニケの信徒への手紙一 5:19-21

「“靈”の火を消してはいけません。預言を軽んじてはいけません。すべてを吟味して、良いものを大事に下さい。」

■礼拝の祈り

天におられますわたしたちの父なる神よ、

<礼拝の招きへの感謝>

今朝も多くの者を礼拝に招き、あなたのみ言葉に心を注ぎ、あなたのみ言葉に心を開く時を与えてくださり、感謝いたします。私どもが御言葉を聞くことができると、あなたがどんなに心を尽くし、愛を注いでくださっているか、改めて思われます。

あなたはわたしたちひとりひとりの名を呼んで、招き、語りかけてくださいます。けれども、このことはなによりも、こうしてみなが集まる教会のできごとだと信じます。あなたがわたしたちひとりひとりを礼拝で、御言葉によって作りかえ、教会をも新しくしてください。あなたの恵みによって作られる教会の新しい姿を、豊かに祝福の中においでください。しかし、教会を形作るには、わたくしどもの力はまことに弱いものです。知恵がありません。どうか、目の前の安全、礼拝を保つこととともに、この出来事をあなたが良いものを造り出し、わたしたちをますますあなたの御心に従うためにお用いください。今日は礼拝に来れない者もおります。あなたが決してそのような人たちを忘れず、憐れんでくださると信じます。一人の礼拝者をみもとに送りました。寂しさの中、なお礼拝への思いを高めます。この礼拝が天の礼拝に連なりますよう、心を高くあげてください。

<神の御前での罪の告白と悔い改め>

わたしたちは、困難に面した時も平穏な生活でも、日々の歩みの中で御言葉を聞くことがいかに少なく、まして、御言葉に立ち、御言葉に根差して自らの歩みを造ることにいかに貧しかったかを改めて思い知らされます。そのために、どれだけ多くの者を愛しそこない、しかもそれを正当化して、自分が正しいと疑わなかったことを思い起こします。こうしてみ前に立たされた時、わたしたちの傲慢の罪を、あなたが明らかにしてください。しかし、どうかそのようなわたしたちを赦しの光の中に立たせてください。望みを失うこともまた、あなたから離れることですから、罪であることを知ることができますように。

<御言葉が語られ、聞かれるため、聖霊の働きを求めて>

今、もう一度自分のためだけでなく人ためにも祈る心を取り戻させてください。あなたの御前に厳しい思いで立たされる中で、それだけに深く互いに支え合い、赦された喜びの中で、互いに赦し合うことができますように。御言葉によって作られる教会の歩みをあなたが神の民の歩みとし、あなたが強め、導いてください。そのためにどうか、御言葉を与えてください。御言葉によってのみ、わたしたちはあなたを賛美し、教会を造り、生かし、永遠の命へ導く御言葉によって、わたしたちは本当の命を生きることができるからです。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

■教会の祈り

<礼拝感謝>

<故人を覚えて>

先週、信仰のともが召され、主におゆだねする葬儀をいたしました。礼拝を喜び、教会を愛して歩みをつづけてきた故人の信仰をあなたが必ずかえりみてくださる希望を確かにいたしました。寂しさ、悲しみの中にある残された遺族を特にあなたが慰めてくださいますように。御言葉の葬儀の礼拝が与えられたことを感謝いたします。

<連合長老会の交わりを覚えて>

先週は神奈川連合長老会の講壇交換により大磯教会の鈴木憲二牧師が説教を担ってくださいました。説教者それぞれの賜物を生かしつつ、その根本においては全く変わらない主イエスの恵みが語られました。礼拝を豊かにして下さり感謝いたします。

新たに大磯教会を迎えて、ともに歩む神奈川連合長老会の信仰の交わりを与えて下さって感謝いたします。

<困難の中にある人を救ってください>

心や体の病気、悩み、不安の中にいる者をどうかたすけてください。医療も介護もあります。家族の助けもあります。けれども、あなたの御言葉こそが必要なのです。主がともにいてくださる。まことの救いをお与えください。

そのような者たちを覚えて祈るわたしたち一人ひとりが御言葉を携えてかたわらに寄り添うことができるように用いてください。

<祈りの生活のために>

この礼拝から送り出されて、それぞれ与えられた世の持ち場へと赴きます。今週、そしてあらたに迎えます新しい月の歩みも守り、導いてください。礼拝のみ言葉から送り出されて、聖書を読み、祈る生活としてください。

私たちの主、イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン。